

STYLING

MONO

ファイブブラザーが創業した1890年
という時代は、アメリカでは
工業化と都市化が急速に進んだ時代。
そんな世の中のワークウエアは
広大な農地だけではなく、
都市の工場でも着用できるデザインが
次第に求められるようになった。

Since 1890
WORK
SHIRTS

VOL.27 FIVE BROTHER SINCE 1890~

●【ファイブブラザー】 Photo/Tomoaki Tsuruda (WPP)
Text/Teruhiko Doi (WPP)

Photo/Library of Congress



考えるに、アメリカの西部開拓の歴史は自然との闘いであった。先住民以外のヨーロッパ人にとっては未知の土地を開拓していったわけで、基本は森林や荒野に住まいや農地を作り上げるといふ国作りだった。そのときのウエアは、現代に続くアウトドア・ウエアの原型となるもので、そのついでにワークウエアも進化していったはずだ。シャツがボロになったから新しいものを買に行く、という現代の流通など存在するはずも無かったのだ。とにかく丈夫であることが、生活用品全般に求められる最大の条件であった。そうした開拓者たちの要求に応える機能的で丈夫なウエアが、その後数多く誕生したが、その労働者の歴史はそのままアメリカの歴史でもある。現代にも伝えられるオールド・アメリカのひとつとして知られる『ファイブブラザー』もまた、歴史の証人としてカウントされるブランドだ。

STYLING

MONO

Since 1890
WORK SHIRTS

ワークウェアだけではなく
アウトドアやウエスタンなど
アメリカンカジュアルのカルチャー全般を
ファッションのテイストとして提案する
「ファイブブラザー」。
単なるリメイクでは終わらない
オリジナルブランドの強みが人気である。



1890年にニューヨークで始まった『ファイブブラザー』は創業当初からワークウェアやアウトドア・ウェアを手がけており、21世紀のいまも100年以上の歴史を持つ老舗ブランドとして知られている。その着心地の良さや耐久性の高さで当時の労働者に爆発的な人気となり、瞬く間にアメリカ全土へと広がっていった。特にコットン100%のヘビーフランネルシャツには定評があり、アメリカ中のワーカーたちに愛用されてきた。現在ではアメリカンカジュアルの総合ファッションブランドとして知られ、当然タフな作業着から、街着としてのテイストを持つウェアに変化していったわけだが、随所に創業当時の残しているところに好感が持てる。たとえばこのチェックのワークシャツには3ラインで縫製された頑丈なステッチや、当時、生産効率を上げるために採用されていた補強用の空環(ガラカン)、マチも残されている。トリプル・ステッチや空環はワークシャツではお約束、というのが最近のアメリカの風潮になった観があるが後付のディテールではなく、創業当時の製造方法をきちんと再現しているというデザインは、本物としての意味性があるのだ。

実にオーソドックスな
バランスのいいデザインの
ワークシャツ。古典的なチェックは
アウターとの合わせや、ボトムとの
コーディネートに最強のアイテム。



ペンホルダー付きのワークシャツも昔からのスタイル。こうした機能は、ワークシャツが工場労働者向けに作られていたことを物語るデザインだ。

時代は移り、労働者のために作られたウエアはいつしかストリートにおける重要なファッションとしてすっかり定着した。誕生時に必要とされた機能や作りが、ストリートで重要な価値判断の基準になっていることに、文化的な興味は尽きない。



ワークシャツの作りで最も重要なのは、襟裏にあたる首周りに厚い生地を使って二重に縫い合わせてある点。吸汗と型崩れを防ぐ機能である。



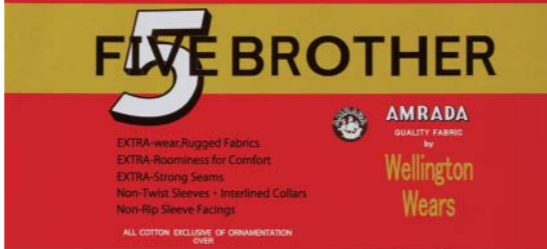
ワークパンツに付属しているコインポケット。ファスナーのタブの部分が金属製のチェーンになっている。



シャンプレーのワークシャツとT/Cワークパンツの組み合わせ。デニムよりもカラーのバランスが落ち着いて見える。年齢を問わず楽しめるコーディネートといえるだろう。



トリプル・ステッチはワークシャツではデフォルト。何回洗っても型崩れしないその頑丈さが、ワークウエアの原点である。



ペインターパンツにはお馴染みのツール・ループ。チェーン付きのウォレットを留めておくのに便利。

この時代で面白いのは、それまで歴代大統領はすべて農業社会から出てきた人物が就任していたが、この19世紀後半から20世紀初頭には実業界など都市部を代表する人物がほとんどで、アメリカの産業におけるパワーバランスに変化が生じている。そうした社会的な変革と共にワークウエアも都市の洗練された影響を受けたのだ、と想像するのは決して牽強付会な説ではないからである。

アメリカン・ワークウエアは必要から生まれた衣料



ワークパンツの代表であるペインターパンツだが、ダックカラーは最もシンプルな色。さまざまな機能がデザイン・アイコンとして残っている可愛さがい。



MONO
Since 1890
WORK SHIRTS

シアーズローバックが通信販売を始めたのは19世紀末。個人商店や行商では価格設定がまばらであったので、定価でカタログから選べるスタイルは瞬く間に全米に広まった。20世紀初頭のカタログを見ていくとワークウエアの扱い点数は非常に多い。

チェックのワークシャツにダックカラーのパンツの王道組み合わせ。シューズのセレクトに夢が広がるカラーバランスである。パンツはペインターパンツで着まわしの利くスタイルである。

19世紀後半から20世紀初頭にかけてアメリカの農業や農業労働者の人口は約2/3に減少したといわれている。多くが工業生産品の増加による工業労働へ移行したためだ。農業・工業の違いはあれ、そこで働く労働者たちは、農地だけではなく都市

SHIRTLING



1890年にアメリカNYで創業。
 いまも多くのアメカジ・ファンから
 愛され続けている老舗ブランド。
 Photo/Courtesy of the Dorothea Lange Collection.
 ©The Oakland Museum, 1982

MONO
 Since 1890
WORK SHIRTS

スタンダードなデザインながら
 当時のディテールと現代のトレンドを持つ。
 ファイブブラザーについての
 お問い合わせは
 トップウィンジャパン ショールーム
 ☎03-3406-6001
 www.topwin.co.jp



T/Cワークシャツ
 価格9345円
 レッドストライプの生地は
 ヘビーなウエアのインナーにいい。



チェック・ワークシャツ
 価格9345円
 オールドボックスで着回しの利く
 万能ワークシャツ



T/Cワークシャツ
 価格9345円
 シンプルなブルーグレーのシャツは
 いろんな組み合わせを楽しめる。



シャンブレー・ワークシャツ
 価格9345円
 洗いざらしのシャンブレーは
 最高の着心地の良さを実感できる



シャンブレー・ウエスタンシャツ
 価格9975円
 Wフラップポケットやボタンなど
 ウエスタンシャツの正統といえるデザイン



ダックペインターパンツ(左)
 価格1万4700円
 T/Cワークパンツ(右)
 価格9345円